



東京大学附属図書館概要 2015／2016



東京大学附属図書館長

久留島 典子

東京大学附属図書館は、現在変革のときを迎えています。情報通信技術の進展により、学術情報において電子ジャーナルやデータベースの形態がごく普通のものとなったばかりでなく、教育・研究手法や、学術コミュニケーションのあり方自体も大きく変化しつつあります。また、社会の様々な課題が複雑化・グローバル化する中、人々が多様な知恵を出し合い、連携協力して行動をおこすことが一層必要とされています。東京大学としても、このような課題解決に貢献できるよう、世界最高の学びの場作り、卓越した研究者の輩出、知の協創の世界拠点の形成などを重要な目標に掲げており、これを学術情報基盤の面から支えることが附属図書館の役割といえます。

これまで附属図書館では、電子媒体と紙媒体それぞれについて基盤的学術情報を安定的に整備するため、学術雑誌・電子ジャーナル等購入経費の全学共通経費化を実現し、また、学習・教育に資する学生用図書の充実にも努めてきました。さらに、本学で創出される世界水準の研究成果を国内外に広く発信し、社会に還元するために、学術機関リポジトリ「UTokyo Repository」の構築、拡充にも力を入れています。これらの取り組みを、今後も維持・強化していく必要があることは、言うまでもありません。

しかしながら、新たな課題に対応するためには、これまで附属図書館が果たしてきた学術情報の収集・保存・安定的提供という各機能を高度化するだけではなく、大学図書館としての新たなあり方を実現することが求められています。そして、このような背景のもと、現在全学的プロジェクトとして進行しているのが、新図書館計画です。

新図書館計画では、電子媒体と紙媒体の学術情報を融合させ、文理あるいは分野の垣根を越えて多様な人々が学び、研究し、交流できる場を作り、そこから新たな価値を生み出す「知の協創」のための環境を提供します。また、本学の強みであるアジア研究に関する資料を集中化し、各国の研究者が集う世界最高水準のアジア研究図書館を設置します。

このような未来を展望した新しい機能を持つと同時に、これまで蓄積してきた人類の多様な知的財産を確実に後世に伝えていくこともまた、附属図書館の重要な使命といえます。地下に新設される自動化書庫はそのための取り組みの一つとして、文系雑誌のバックナンバーなどを保管・蓄積し、学術文化の継承を保証するものです。これらをいかに活用し、現実空間と仮想空間を連動させた知のアーカイブを構築していくかが、新図書館計画の大きな課題です。

今後、附属図書館のあり方を変えていくには、新図書館計画で刷新が進む総合図書館をはじめとして、同じくキャンパス拠点図書館である、駒場図書館、柏図書館と、様々な学問分野を基礎とする32の各学部・研究所図書館・室とが、それぞれに変革に向けて歩みを進め、緊密なネットワークを形成して、「共働する一つのシステム」として有機的に連携協力していくことがいよいよ求められます。

東京大学附属図書館は、「知の協創の世界拠点」たるべき東京大学の取り組みの支えとなるよう、今後、新図書館計画を着実に実現してまいります。計画推進には多くの困難が予想されますが、利用者の皆様にはご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

歴代館長

末岡 精一	文学部準講師	1881. 8. 5 ～
田中 稲城	文学部準講師	1882. 3. 4 ～1882. 7. 22
谷田部 梅吉	理学士	1882. 7.22 ～1883.12.11
松井 直吉	理学部教授	1883.12.13 ～1885.11
木下 廣次	法科大学教授	1886. 3. 9 ～1889.10.23
宮崎 道三郎	法科大学教授	1889.10.23 ～1890. 3. 24
田中 稲城	文科大学教授	1890. 3.24 ～1893. 9. 6
和田 萬吉	文科大学教授	1893.11. 7 ～1923.11.29
姉崎 正治	文学部教授	1923.11.29 ～1934. 3. 30
高柳 賢三	法学部教授	1934. 3.31 ～1940. 6. 14
市河 三喜	文学部教授	1940. 6.15 ～1946.10. 4
高木 八尺	法学部教授	1946.10. 5 ～1950. 3. 30
高木 貞二	文学部教授	1950. 3.31 ～1953. 4. 9
末延 三次	法学部教授	1953. 4.10 ～1960. 3. 31
岸本 英夫	文学部教授	1960. 4. 1 ～1964. 1.25
伊藤 四十二	薬学部教授	1964. 1.26 ～1969. 3. 31
松田 智雄	経済学部教授	1969. 4. 1 ～1972. 3. 31
今井 功	理学部教授	1972. 4. 1 ～1975. 3. 31
安藤 良雄	経済学部教授	1975. 4. 1 ～1978. 3. 31
藤原 鎮男	理学部教授	1978. 4. 1 ～1981. 3. 31
裏田 武夫	教育学部教授	1981. 4. 1 ～1985. 3. 31
山崎 弘郎	工学部教授	1985. 4. 1 ～1988. 3. 31
黒田 晴雄	理学部教授	1988. 4. 1 ～1991. 3. 31
清水 忠雄	理学部教授	1991. 4. 1 ～1994. 3. 31
開原 成允	医学部教授	1994. 4. 1 ～1996. 3. 31
六本 佳平	大学院法学政治学研究科教授	1996. 4. 1 ～1999. 3. 31
落合 卓四郎	大学院数理科学研究科教授	1999. 4. 1 ～2002. 3. 31
廣渡 清吾	副学長・社会科学研究所教授	2002. 4. 1 ～2003. 3. 31
小宮山 宏	理事（副学長）・大学院工学系研究科教授	2003. 4. 1 ～2005. 3. 31
西郷 和彦	大学院工学系研究科教授	2005. 4. 1 ～2009. 3. 31
古田 元夫	大学院総合文化研究科教授	2009. 4. 1 ～2015. 3. 31
久留島 典子	史料編纂所教授	2015. 4. 1 ～



明治期の附属図書館



再建当時の総合図書館



現在の総合図書館

東京大学は、東京大学附属図書館を、学習、教育及び研究のために不可欠な全学組織として設置し、人類の知的遺産の収集、保存、整理及び新たに創出される学知の世界への発信の拠点とする。

この務めを果たすべく、東京大学附属図書館は、本学における学習、教育及び研究活動を支える学術情報基盤としての役割を担うとともに、わが国における学知の収集、保存及び発信の中心の一つとして、全国の学術研究基盤の充実に貢献し、更に国際的な連携・協力のセンターとして、世界の学術機関との学術情報交流を行なうことにより、世界の学術コミュニティに奉仕する。

東京大学附属図書館の使命

1. 東京大学附属図書館は、学習支援機能、研究支援機能及び保存機能を併せ持つ。総合図書館、駒場図書館、柏図書館は、本学の全ての学生に対して学習、総合的教養修得及び知的人格形成の場を提供し、もって各キャンパスにおける学習支援機能の中心的な担い手となる。部局図書館は、主に、本学における研究を支援するとともに、各部局の特性に応じて学習支援機能をも担う。
2. 東京大学附属図書館は、本学における学習、教育及び研究の発展のために必要な各種の学術情報を収集、保存、整理し、資料の性質に応じて可能な限り広く本学内外の利用に供するとともに、所蔵する人類の貴重な知的遺産を責任をもって次の世代に伝える。
3. 東京大学附属図書館は、本学の全ての学生に対し、学習及び教養修得のために必要な各種の学術情報を提供し、それを有効に活用しうるための施設、設備、スタッフ及び情報を整備する。
4. 東京大学附属図書館は、増大する世界の学術情報を本学の全ての構成員が共有し、有効に活用しうるよう、専門的能力の向上及び情報システムの高度化のために不断の努力を行なう。
5. 東京大学附属図書館は、蓄積された各種の学術情報と、それを有効に活用するための専門的知識を、適切な形で国内外に向けて発信する。



総合図書館洋雑誌閲覧室

東京大学附属図書館基本規則

平成16年4月1日 役員会議決(東大規則第142号)

(目 的)

第1条 この規則は、東京大学基本組織規則に定めのあるもののほか、「共働する一つのシステム」としての附属図書館が、その図書館機能の有効な活用と発展を図ることにより、大学における研究及び教育に対する使命を十分に果せるようにするため、その性格と組織に関し必要な基本的事項を定めることを目的とする。

(附属図書館)

第2条 附属図書館は、次の図書館からなる。

- (1) 総合図書館
- (2) 駒場図書館
- (3) 柏図書館
- (4) 部局図書館

(商議会の議)

第3条 附属図書館に関する重要事項については、東京大学図書行政商議会（以下「商議会」という。）の議を経るものとする。

- 2 商議会は、審議の一部を附属図書館運営委員会（以下「運営委員会」という。）に委任することができる。
- 3 商議会の組織及び運営については、別に定める。

(附属図書館長)

第4条 附属図書館長の任期は、3年とする。ただし、再任を妨げない。

- 2 附属図書館長は、東京大学附属図書館に属する図書館資料の効果的な利用のための総合的運用の任にあたる。
- 3 附属図書館長は、総合図書館、駒場図書館、柏図書館を掌理する。

(附属図書館副館長)

第4条の2 附属図書館に、附属図書館副館長（以下「副館長」という。）1名を置く。

- 2 副館長は、本学の教職員のうちから、附属図書館長が指名する。
- 3 副館長の任期は、指名した附属図書館長の在任期間を超えないものとする。ただし、再任を妨げない。
- 4 副館長は、附属図書館長を補佐し、附属図書館長に事故があるときは、その職務を代行する。

(研究部門)

第4条の3 附属図書館に、研究部門を置くことができる。

- 2 前項の研究部門の教員を選考する場合は、東京大学基本組織規則第9条第5項の規定の適用に関して、商議会を教授会とみなす。
- 3 研究部門の組織については、別に定める。

(附属図書館運営委員会)

第5条 附属図書館の管理運営について審議するため、附属図書館長の下に運営委員会を置く。

- 2 運営委員会の構成及び運営については、別に定める。

(総合図書館)

第6条 本郷キャンパスに、総合図書館を置く。

- 2 総合図書館に、館長を置く。
- 3 前項の館長は、附属図書館長がこれを兼ねる。
- 4 前2項のほか、総合図書館の組織及び運営については、別に定める。

(駒場図書館)

第7条 駒場キャンパスに、駒場図書館を置く。

- 2 駒場図書館に、館長を置く。
- 3 前項のほか、駒場図書館の組織及び運営については、別に定める。

(柏図書館)

第8条 柏キャンパスに、柏図書館を置く。

- 2 柏図書館に、館長を置く。
- 3 前項のほか、柏図書館の組織及び運営については、別に定める。

(部局図書館)

第9条 教育研究部局または全学センター（以下「教育研究部局等」という。）に置かれている図書館のうち、附属図書館に属するものを、部局図書館とする。

- 2 総長は、1若しくは2以上の教育研究部局等、教育研究部局等附属の1若しくは2以上の教育施設、研究施設、又は1若しくは2以上の学科、教室に置かれている図書館を、その属する教育研究部局等の申し出により、商議会の議を経て部局図書館とすることができる。
- 3 総長は、前項に準ずる手続により、2以上の部局図書館を統合し、又は部局図書館を廃止することができる。
- 4 部局図書館の管理及び運営は、当該教育研究部局等がその定めるところによりこれを行う。

(図書館相互の協力)

第10条 総合図書館、駒場図書館、柏図書館及び部局図書館との間、並びに各部局図書館相互の間では、図書館資料の運用について協力するものとする。

(規則の改廃)

第11条 この規則の改廃は、教育研究評議会の審議を経て、これを行う。

附 則

- 1 この規則は、平成16年4月1日から施行する。
- 2 東京大学附属図書館基本規則（昭和38年9月17日制定）は、廃止する。

附 則

この規則は、平成17年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成24年4月1日から施行する。

附 則

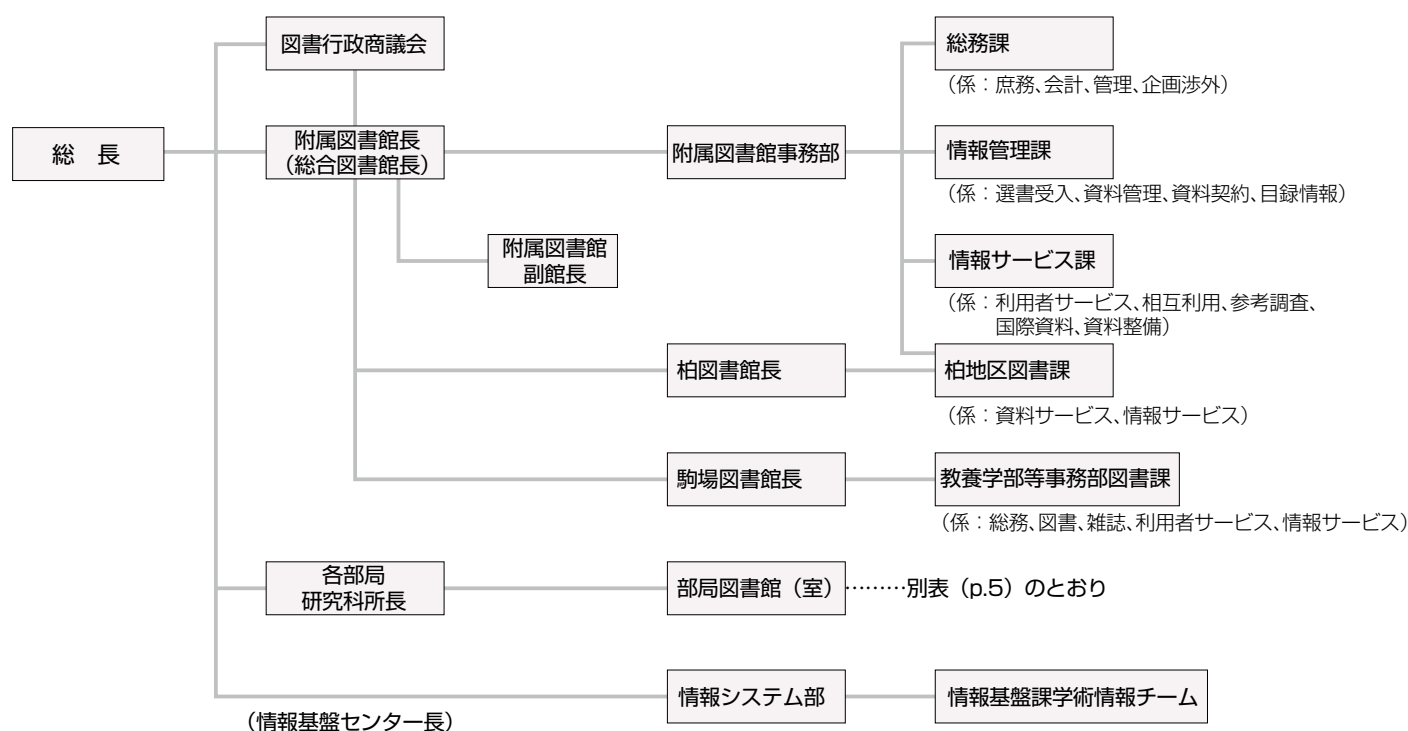
この規則は、平成25年11月28日から施行する。

東京大学附属図書館とは

東京大学には、本郷キャンパスの総合図書館、駒場キャンパスの駒場図書館、柏キャンパスの柏図書館のほか、32の部局図書館・室があります。これらを総称して、東京大学附属図書館と呼んでいます。

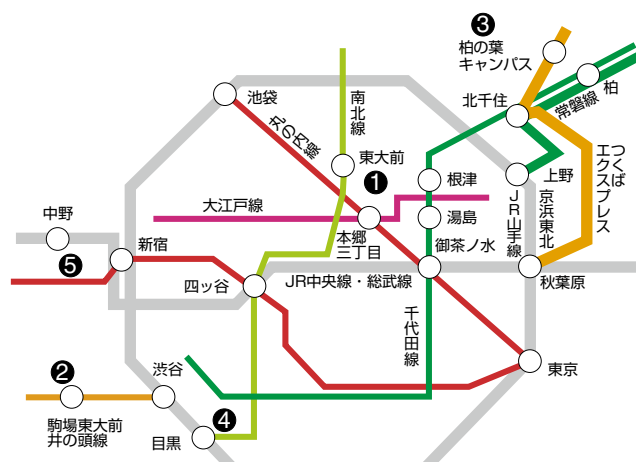
附属図書館は多彩な図書館・室から構成されていますが、「共働する一つのシステム」として、大学における研究及び教育活動をサポートしています。

附属図書館 組織図



東京大学キャンパス配置図

- ① 本郷地区
- ② 駒場地区
- ③ 柏地区
- ④ 白金地区
- ⑤ 中野地区



部局図書館・室一覧

本郷地区キャンパス

大学院法学政治学研究科・法学部研究室図書室

大学院法学政治学研究科

附属近代日本法政史料センター（明治新聞雑誌文庫）

医学図書館

工学・情報理工学図書館

工1号館図書室A（社会基盤学）

工1号館図書室B（建築学）

工2号館図書室（機械系、精密工学、電気系、
バイオエンジニアリング、総合研究機構）

工3号館図書室（システム創成学、原子力国際、技術経営戦略学、
原子力、化学・生命系）

工4号館図書室（マテリアル工学）

工5号館図書室（化学・生命系）

工6号館図書室（物理工学、計数工学、数理情報学、システム情報学、
創造情報学）

工7号館図書室（航空宇宙工学）

工14号館図書室（都市工学）

理7号館図書室（コンピュータ科学）

大学院人文社会系研究科・文学部図書室

大学院理学系研究科・理学部図書室

物理学図書室

天文学図書室

地球惑星科学専攻図書室

化学図書室

生物化学図書室

生物学科図書室

農学生命科学図書館

経済学図書館

大学院教育学研究科・教育学部図書室

薬学図書館

大学院情報学環・学際情報学府図書室

大学院情報学環附属社会情報研究資料センター

地震研究所図書室

東洋文化研究所図書室

社会科学研究所図書室

史料編纂所図書室

総合研究博物館図書室

駒場地区キャンパス

【駒場Ⅰキャンパス】

大学院総合文化研究科図書館

大学院総合文化研究科自然科学図書室

大学院総合文化研究科附属グローバル地域研究機構図書室

大学院数理科学研究科図書室

【駒場Ⅱキャンパス】

生産技術研究所図書室

先端科学技術研究センター図書室

白金地区キャンパス

医科学研究所図書室

柏地区キャンパス

宇宙線研究所図書室

物性研究所図書室

大気海洋研究所図書室



物性研究所図書室

附属図書館活動紹介 ～学習・教育・研究支援～

「知の宝庫」－学術研究情報基盤の充実

東京大学附属図書館は、全体として940万冊以上の図書と約16万種類以上の雑誌を所蔵する「知の宝庫」です。歴史的に貴重なコレクションから最新の資料まで、また、学習用の教養書から研究用の専門書まで幅広く所蔵しており、35ある図書館・室はそれぞれ各学部・研究所の特色等を反映した個性豊かな蔵書を提供しています。

また、東京大学の学習・教育・研究に不可欠な学術雑誌、電子ジャーナル、各種データベースを安定的に維持するため、全学共通経費による整備を進め、学術研究情報基盤の一層の充実をはかっています。

電子的資料の提供

東京大学では現在約2万9千タイトルの電子ジャーナルの他、各種データベースや電子書籍を提供しています。教職員および学生は、電子的資料の一部をSSL-VPN Gatewayサービスや認証GWサービスを通じて自宅や出張先など学外からも利用することができます。

また、多数の電子ジャーナル・データベース等の中から最適なものを選択するためのゲートウェイ「GACoS（ガコス）」を運用しています。東京大学で利用できる学術情報をひとつの検索窓でシンプルに検索できるサービス「TREE（UTokyo REsource Explorer）」や、データベース等の検索結果から論文本文の入手へナビゲートするサービス「UTokyo Article Link」を導入して、求める情報により効率的にアクセスできる環境の整備を進めています。



留学生向けサービスの充実

東京大学は留学生の受入れを積極的に進めており、附属図書館はそれに対応して、留学生向けサービスの充実に努めています。

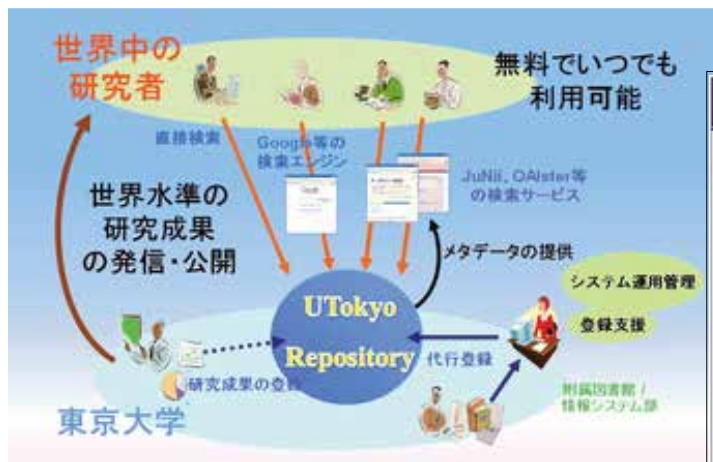
留学生用図書、新聞等の充実はもちろんのこと、図書館ガイド、利用案内等各種印刷物の英文版を作成するほか、各研究科の留学生オリエンテーションと連携した留学生向け図書館ガイダンスを行ない、留学生に対する学習・教育・研究支援の推進に取り組んでいます。

附属図書館活動紹介 ～情報の発信～

東京大学の“知”世界へ発信 東京大学学術機関リポジトリ (UTokyo Repository)

附属図書館と情報システム部情報基盤課は、「東京大学学術機関リポジトリ (UTokyo Repository)」を公開し、サービスを提供しています。これは、東京大学で生産された様々な研究成果を電子的な形態で集中的に蓄積・保存し、学内外に公開するためのインターネット上の発信拠点です。

本学で生み出される世界水準の研究成果の国際的な流通、研究成果の可視性と速報性の向上、知識群のオープンアクセス化、さらに学術と社会の交差を図りつつ、国際的な学術交流に寄与することを目的として、システムの整備、コンテンツの拡充を進めています。収録コンテンツは、学術雑誌論文(871)、学位論文(5,120)、紀要(23,459)、研究調査報告書(703)、レポート類(1,054)等です(括弧内は平成27年4月1日現在の収録件数)。



<http://repository.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/>



アジア古籍電子図書館

東洋文化研究所では、アジア古籍全文データベースのゲートウェイとなる「アジア古籍電子図書館」を公開しています。漢籍善本全文影像資料庫、アラビア語写本ダイバーコレクション、サンスクリット語写本、明代図像資料三才圖會、雙紅堂文庫の各データベースを利用することができます。

<http://imglib.ioc.u-tokyo.ac.jp/>

電子版『鉱山関係絵巻・絵図コレクション』

工学・情報理工学図書館が所蔵する「先大津阿川村山砂鉄洗取之図」等の鉱山絵図、絵巻などをデジタル画像化し、公開しています。

<http://gazo.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/kozan/>

鷗外文庫書入本画像データベース

総合図書館では、森鷗外の旧蔵書コレクション「鷗外文庫」の目録入力と画像データベースを作成し、情報システム部情報基盤課の協力のもと「鷗外文庫書入本画像データベース」として公開しています。

<http://rarebook.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/ogai/index.html>

このほかにも多くの資料が電子化・公開されており、以下の URL から閲覧可能です。

<http://www.lib.u-tokyo.ac.jp/koho/guide/coll/index.html>

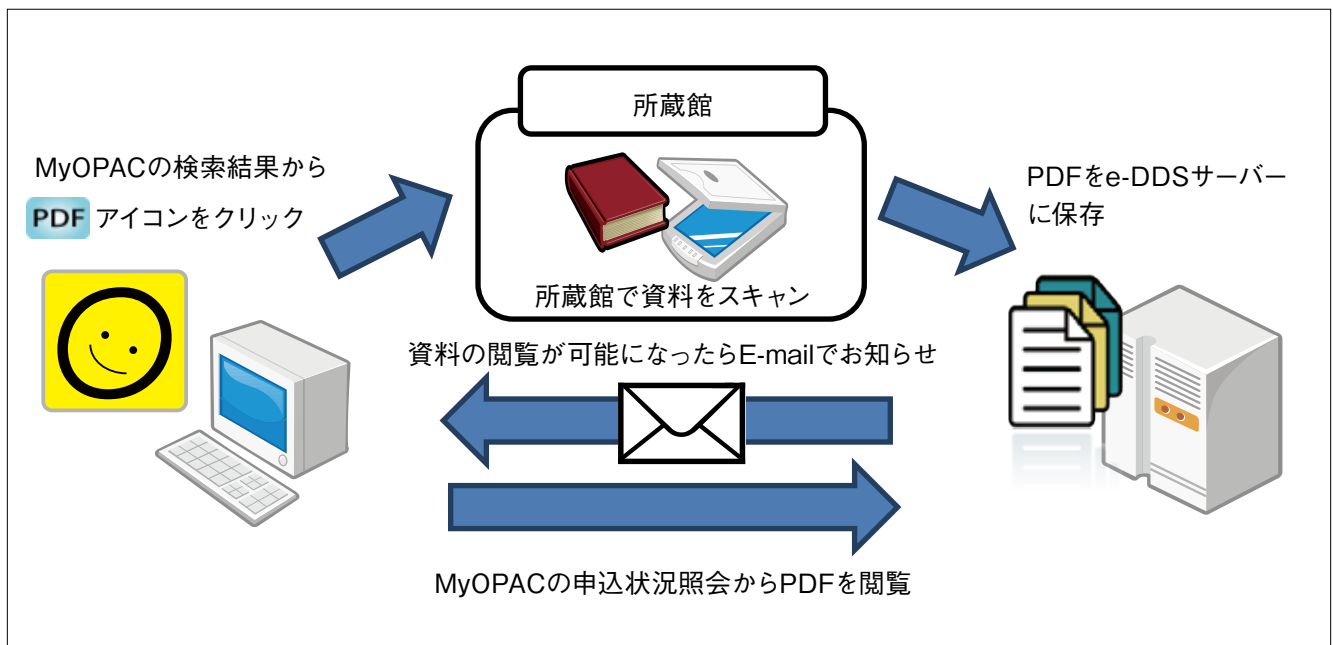
附属図書館活動紹介 ～サービスの展開～

MyOPACサービス

東京大学附属図書館で利用できるオンライン・サービスをまとめた、個人専用のサービスの入り口として、MyOPACサービスを提供しています。主なサービスに、貸出・予約状況照会、学内・学外からの文献の取り寄せ、図書の購入希望等があります。文献の取り寄せには、オンラインでアクセスするPDFの閲覧と、紙のコピー及び図書の現物の配送があります。

●PDFの閲覧（e-DDSサービス）

MyOPACの検索結果で「PDF」のアイコンが表示される資料について、文献複写の申し込みから閲覧までを、Web上で簡単に行うことのできるe-DDS（Electronic Document Delivery System & Services）サービスを実施しています。従来の紙のコピーを取り寄せる方式に比べ、スムーズかつ迅速に必要な文献が入手できます。



●コピーの取り寄せ、現物貸借

附属図書館では、学内外の図書館・室に所蔵されている資料の取り寄せサービスを行っており、MyOPACを通してオンラインで申し込みをすることができます。学内所蔵資料のコピー取り寄せについては、公費払いの場合、送付先を研究室宛にすることが可能です。

ASK サービス

ASKサービスとは、参考調査質問をWebから申し込み、その回答をメールで得られるオンラインレファレンスサービスです。過去の質問、回答はデータベースに蓄積、公開されておりキーワード検索が可能です。平成26年度からは、国立国会図書館レファレンス協同データベースでの、ASK事例の公開も開始しました。

<https://opac.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/ask/>

附属図書館活動紹介 ～広報活動～

附属図書館ホームページ

附属図書館のホームページでは、トップページにTREEやOPAC（蔵書検索）の検索窓を表示し、「図書館を使う」「本や雑誌を探す」などの目的別メニューを設け、図書館が提供する多種多様なサービスやコンテンツに、的確にナビゲートする工夫を施しています。



<http://www.lib.u-tokyo.ac.jp/>

広報刊行物



●図書館利用ガイド（和・英）

附属図書館およびインターネット上の学術情報へのアクセスをスムーズかつスマートに行い、快適な学習・研究活動を送ってもらうためのガイドブックです。

●図書館の窓

「図書館の窓」は、附属図書館が提供するサービスやイベントなどを案内するニュースレターです。学内の図書館・室や各門のゲート等で配布しています。



展示会

附属図書館では、東京大学で所蔵する多彩な資料や文物を、テーマを設けて紹介する特別展示を行っています。また、各図書館・室でも特色ある蔵書を活かして、展示を実施しています。

●平成26年度東京大学附属図書館特別展示

総合図書館 コレクションへの招待状 -世界中から集まった貴重な資料たち-
2014年10月16日～11月26日

●平成25年度東京大学附属図書館特別展示

総合図書館 今昔物語 -時代と共に-
2013年10月18日～11月27日

<http://www.lib.u-tokyo.ac.jp/tenjikai/index.html>

※総合図書館は改修工事のため、平成27年度から展示は休止しています。



●柏図書館企画展示

❖柏図書館10周年記念事業「科学史」イベントシリーズ

第1回企画展示：「かたち -折紙、鉱物-」（東大駒場博物館協力）（2014年4月1日～10月31日）

第2回企画展示：「音楽と歩む」（国立女性教育会館協力）（2014年7月1日～9月30日）

第3回所蔵資料展示：「雑誌でたどる戦前・戦中・戦後の科学」（2015年2月9日～5月29日）

❖柏キャンパス一般公開2014「図書館にのこる科学の足あと」

パネル展示「リケジョのMy研究生活」（柏キャンパス図書館室合同企画）（2014年10月24日～25日）

柏図書館は、自然科学系研究所が集まる柏キャンパスの拠点図書館であり、学内の自然科学系学術雑誌のバックナンバーセンター機能も担っています。開館10周年を迎えた2014年には、「科学史」「世界結晶年」をテーマとして、学内外の協力を得て、数々の記念イベントを行いました。企画展示、サイエンスカフェなどは、シリーズとして継続実施しています。

<http://www.lib.u-tokyo.ac.jp/kashiwa/index.html>



主な文庫・コレクション Web上に公開されているものも多数あります。

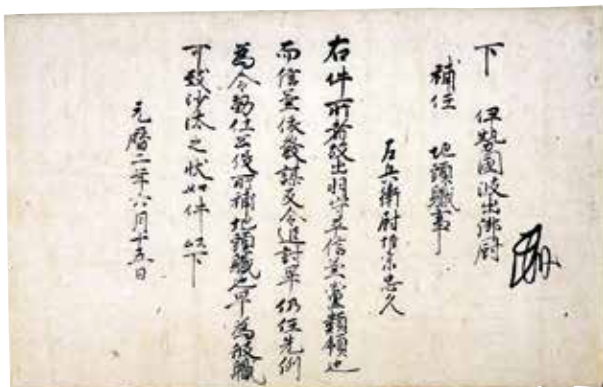
	文庫名	内 容	数 量
総 合 図 書 館	鷗外文庫	森鷗外の旧蔵書。日本の歴史や文学などを中心に、伝記、江戸古地図のほか、ドイツ留学中に収集したと思われる洋書など。 http://www.lib.u-tokyo.ac.jp/koho/guide/coll/Ogai.html	18,800
	霞亭文庫	明治・大正期の小説家、渡辺霞亭が収集した江戸時代の小説類と演劇書。 http://kateibunko.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/katei/index_srch.html	1,851
	亀井文庫	旧津和野藩主の家柄である亀井茲明が19世紀末のドイツ留学中に収集した西洋美術関係の洋書。 http://www.lib.u-tokyo.ac.jp/koho/guide/coll/Kamei.html	1,958
	鵜軒文庫	医学部教授であった土肥慶蔵（鵜軒）旧蔵書の中の和漢医学書。 http://www.lib.u-tokyo.ac.jp/koho/guide/coll/Gakken.html	4,618
	洒竹文庫 竹冷文庫 知十文庫	明治から昭和にかけての俳人であった大野洒竹、角田竹冷、岡野知十が各々収集した連歌俳諧書。	6,577
	青洲文庫	甲州の素封家であった渡辺家の寿、信（青洲）、沢次郎の三代にわたる、主に漢籍・国文学関係書からなる旧蔵書。伊藤博文の筆による額あり。	25,000
	田中芳男文庫	日本博物学の草分けの1人、田中芳男の収集した博物学及び博覧会関係資料。	6,000
	南葵文庫	紀州徳川家の旧蔵書で、南葵文庫自体が様々な個人文庫の集積でもある。徳川最後の将軍慶喜の筆による額あり。	96,000
	英国書史関係集書	英国政府から寄贈された英国印刷史上の稀覯書。	182
法	モース文庫	明治初期のお雇い外国人モース（Edward S.Morse）から贈られた日本関係及び自然科学関係の資料。	約1,770
	宮武外骨関係資料	明治新聞雑誌文庫の創始者、宮武外骨刊行の新聞・雑誌・絵葉書等。	約720
	吉野文庫	大正期の政治学者で法学部教授であった吉野作造の旧蔵書。	8,716
医	牧野新聞	植物学者牧野富太郎が植物標本の押し葉用に用いた新聞コレクション。	約5,000
	ワルダイエル文庫	ドイツの解剖学者ワルダイエル（Wilhelm von Waldeyer-Hartz）の旧蔵書。主に解剖学関係の著書・文献、動物学・人類学関係書など。	約2,000
	三宅文庫	三宅良斎・秀・鑠一・仁の四代にわたる医家の蔵書。秀・鑠一・仁は東大医学部教授を務めたことから、東京大学医学部関連資料も含まれる。	約1,200
人 文	呉秀三文庫	医学部名誉教授で精神医学者の呉秀三旧蔵書。医学史関係の稿本、写本、書画など。 http://www.lib.m.u-tokyo.ac.jp/digital/kure.html	約190
	市河文庫	文学部教授であった市河三喜旧蔵の19世紀末～20世紀初頭の英語学・言語学関係論文。	約1,200
	ハーン文庫	市河三喜旧蔵の小泉八雲（Lafcadio Hearn）の著作・訳書・研究書及び雑誌記事等。	303
経 済	本居文庫	本居宣長及びその子孫・門下の自筆本・写本。	3,534
	アダム・スミス文庫	アダム・スミス（Adam Smith）の旧蔵書。	318
駒 図	エンゲル文庫	ドイツの統計学者エンゲル（Ernst Engel）の旧蔵書。	1,217
	狩野文書	旧制第一高等学校長であった狩野亨吉の日記・来翰など。	約30,000
	木谷文庫	演劇・浄瑠璃研究家木谷蓬吟旧蔵の幕末・明治の浄瑠璃関係史料。日記・書簡・書画等。	170
情 報 環 境	大日本海志編纂資料	海軍省が日本海志編纂を企図して収集した、近世の水軍書・造船資料をはじめ多岐に渡る資料。 http://gazo.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/kaishi/index.html	400点以上
	小野秀雄コレクション	前身である新聞研究所の実質的な創設者小野秀雄が収集したかわら版、新聞錦絵、号外など。 http://www.lib.iii.u-tokyo.ac.jp/collection/collection.html	1,144
	大木文庫	北京在留の弁護士であった大木幹一より寄贈された中国法制関係資料。	3,168
東 文 研	雙紅堂文庫	書誌学者長澤規矩也旧蔵の明清時代の戯曲・小説類。 http://hong.ioc.u-tokyo.ac.jp/	3,000
	ダイバー・コレクション	ダイバー（Hans Daiber）収集のイスラーム世界の伝統的文化全般に関わる写本コレクション。 http://ricasdb.ioc.u-tokyo.ac.jp/daiber/db_index.html	487
	糸井文庫	東京職業紹介所長などを務めた糸井謹治の収集による日本労働事情関係資料。 http://library.iss.u-tokyo.ac.jp/collection/itoi.html	10,500
社 研	極東軍事裁判記録	極東軍事裁判の公判、弁護関係資料。	454
	ドイツ労働総同盟（DGB）旧蔵文書	DGB旧蔵の1900年初頭から1970年代に至る資料。 http://library.iss.u-tokyo.ac.jp/collection/dgb.html	6,909
	島津家文書	平安時代より江戸時代に至る薩摩藩島津家伝来の文書群。国宝に指定。	約9,500
史 料	宗家史料	対馬宗家の江戸藩邸に伝来した史料。	約3,000
	徳大寺家本	旧公爵徳大寺家伝来の公家史料。	約4,400
	益田家文書	石見の豪族益田家中世以来の史料。	約10,000



「ケルムスコット版 チョーサー著作集」
英国書史関係集書（総合図書館）



「東京汐留鉄道御開業祭礼図」 小野秀雄コレクション（情報学環・学際情報学府図書室）



「歴代亀鑑 源頼朝下文」 島津家文書（史料編纂所）



「青砥藤網摸稜案／曲亭馬琴著」
鷗外文庫（総合図書館）



アダム・スミス文庫（経済学図書館）



13世紀のアラビア語「哲学の導き」注解書の写本
ダイバーコレクション（東洋文化研究所）

沿革

1877 (明10) 4月 10月	東京大学創設 (医・法・文学部) 法・理・文三学部 (一ツ橋) 図書館の設置、図書館規則の制定
1881 (明14) 6月	東京大学職制の改正、同時に四学部図書館規則を「東京大学図書館規則」として統合
1886 (明19) 3月	「帝国大学令」公布、「東京大学図書館」を「帝国大学図書館」と改称
1892 (明25) 8月	図書館新築落成
1897 (明30) 6月	「帝国大学図書館」を「東京帝国大学附属図書館」と改称、「館長」職制制定
1899 (明32) 2月	「図書館商議会」設置、同規程制定
1918 (大7) 9月	「東京帝国大学附属図書館規則」改正。本館管理の下、部局、各教室・学科研究室にも 図書を備え付け
1923 (大12) 9月	関東大震災、附属図書館炎上全壊、蔵書喪失、国際連盟で復興援助の決議
1924 (大13) 6月 12月	帝国大学附属図書館協議会創設 ロックフェラーJr.より図書館再建資金400万円受贈
1928 (昭3) 12月	新図書館完成 (12月1日を開館記念日とする)
1950 (昭25) 3月	「図書館商議会」を「図書行政商議会」と改称
1961 (昭36) 4月 5月 9月 11月	図書館に部課制実施 岸本館長「附属図書館改善計画案」発表 ロックフェラー財団より図書館機能近代化資金8,400万円受贈 (改装工事開始) 全学総合目録の編成作業開始
1962 (昭37) 10月	図書館報「図書館の窓」創刊
1963 (昭38) 9月	「東京大学附属図書館基本規則」制定 (「本館」を「総合図書館」と改称し、附属図書館は、総合図書館と部局図書館からなる ことを規定)
1965 (昭40) 7月	総合図書館、国連の寄託図書館となる
1968 (昭43) 11月	東大紛争のため総合図書館閉鎖 (翌年2月まで)
1969 (昭44) 3月	外国雑誌一括購入業務の開始
1982 (昭57) 1月	裏田館長「東京大学総合図書館改善計画試案」発表 (1984年より改修工事着工)
1986 (昭61) 5月 6月	附属図書館電算化システム稼働開始 OPAC (利用者用オンライン目録) サービス開始
1987 (昭62) 4月 4月	総合目録 (洋書) 遡及入力開始 (～1990.3) バックナンバーセンター設置
1988 (昭63) 4月	共同利用図書購入費の学内措置開始
1992 (平4) 4月	学術情報センターのNACSIS-ILLシステムに参加
1993 (平5) 1月	UTnet (学内LAN) によるOPACサービス開始 (インターネットへのOPAC公開)
1995 (平7) 9月 10月	遡及入力10年計画開始 (第Ⅰ期) WWWサーバによる図書館ホームページの開設
1996 (平8) 11月	東京大学学位論文論題データベースサービス開始
1997 (平9) 1月 6月	附属図書館電子化事業開始 (霞亭文庫の電子化) 本郷・駒場キャンパス図書館 (室) 間相互貸借のための集配サービス (キャンパスローン) 開始
1999 (平11) 4月 10月	大型計算機センター、教育用計算機センター、附属図書館の一部を統合し、情報基盤 センター発足 Webブラウザに対応したOPACシステム (WebOPAC) の公開
2000 (平12) 4月 10月	電子ジャーナル導入試行実験開始 総合図書館開架図書の分類変更開始 (2002年8月完了)
2001 (平13) 10月	Webリクエストサービスを開始
2002 (平14) 2月 10月	多言語対応版OPACのサービス開始 駒場図書館の開館
2004 (平16) 3月 5月	「東京大学附属図書館基本規則」の新たな制定 (附属図書館は、総合図書館・駒場図書館・柏図書館・部局図書館からなることを規定 し、運営原則を「共働する一つのシステム」とすることを明記) 全学資料購入集中処理システム暫定スタート (12月より本格運用)
2005 (平17) 2月 3月 4月 10月	柏図書館正式開館・自然科学系雑誌バックナンバーセンター設置 (2004年5月より部分開館) e-DDSサービスの開始、ASKサービスの試行開始 (2006年8月より正式運用) キャンパス間返却サービス開始 遡及入力10年計画第Ⅱ期開始

2006 (平18)	4月	東京大学学術機関リポジトリ (UT Repository) 公開
	9月	MyLibraryサービス開始
2007 (平19)	4月	全学共通経費による基盤的学術雑誌等整備開始 (第Ⅰ期 平成23年度末まで)
	11月	UT Article Search、UT Article Linkサービス開始
2008 (平20)	4月	全学学生用図書費の恒常化
	10月	全学資料購入集中処理システム (第2ステージ) 開始
	12月	総合図書館再建80周年記念式典、記念プレート除幕式、記念講演会開催
2009 (平21)	12月	総合図書館棟ポーチ外灯復元記念披露及び点灯式
	12月	図書館間返送管理システム「楽返くん」が2009年度業務改善総長賞を受賞
2010 (平22)	5月	キャンパスローン (資料取り寄せ) サービスの対象を拡大し、学部学生も利用可能に
2011 (平23)	3月	東日本大震災により多数の図書が落下・破損し、多くの図書館・室が一時休館
	3月	MyOPACサービス開始
	3月	新図書館構想推進委員会が発足
	4月	全学共通経費による基盤的学術雑誌等整備 (第Ⅱ期 平成27年度末まで)
2012 (平24)	4月	新図書館建設に向けた準備工事に着手
	12月	図書館引越作業効率化ツール『図書館ひっこしららくキット』が2013年度業務改善総長賞を受賞 (平成27年度に国立大学図書館協会賞も受賞)
2014 (平26)	4月	TREEサービス開始
	4月	アジア研究図書館上廣倫理財団寄付研究部門設立
	8月	附属図書館外部評価実施
	12月	新図書館建設の本工事に着手

図書館風景



駒場図書館



柏図書館



法学部研究室図書室



工3号館図書室
(システム創成学、原子力国際、技術経営戦略学、原子力、化学・生命系)



東京大学附属図書館

〒113-0033

東京都文京区本郷7-3-1

TEL 03 (5841) 2612

URL: <http://www.lib.u-tokyo.ac.jp/>

表紙解説

「松乃栄」(附属図書館蔵：東京大学五十年史資料の内)

東京大学のシンボルの一つである、いわゆる「赤門」は、文政10年(1827)、加賀藩13代藩主前田斉泰が徳川11代將軍家斉の第21女(38番目の子供)溶姫(15歳)を妻に迎えるときに建立された。表紙の大錦三枚続きの絵は、三代歌川国貞によるもので、溶姫の御輿入れの様子を描いたものである。

三代国貞は江戸後期最大の浮世絵師である初代国貞の弟子であり、この絵は明治22年(1889)に描いたものである。